

＜今日の説教のポイント 創世記 31 章 22 節～32 章 1 節＞

①ラバンに告げられた神の言葉に注目 「良し悪しを一切語るな」

妻と子・財産・守り神を持って無断で逃げ出したヤコブを追いかけたラバン。しかし、夢でヤコブの神から「ヤコブを一切非難せぬよう、よく心に留めておきなさい」(24)と告げられたので、追いついて語った内容は抑えられたものでした(29)。「一切非難せぬよう」のヘブル語原典の直訳は「良い、悪いを一切言うな」です。私たちが誰かと言い争う時は、「相手が絶対に悪い」と非難できると思っている時です。しかしそうしたら大概是相手から、「そんなこと言うけれど、あなたは…」と別の事柄について非難され、「それは…」と弁解することになるものです。

「一切非難せぬよう、よく心に留めておきなさい」。この教えは今の私たちにも語りかけられている、神様からの恵みの教えなのです。

②怒り、責め、言い返すヤコブ。 私たち自身の姿ではないか？！

ヤコブの姿も問題です。ラケルが守り神を盗んだことを知らないヤコブは、それが見つからなかったので、「怒ってラバンを責め、言い返し」ます(36)。この後は一気に憤りを爆発させて語った感じですが、もし見つかったらラケルを死に追いやっていたことなど考えもせず(32)、自分に都合のいいように神様を持ち出しているような気がします(42)。これも私たち自身の姿なのではないでしょうか。反省させられます。

③契約は互いに守り合うもの。しかし、御子による神様の契約は違う！

ヤコブとラバン(人間と人間)が契約を交わして問題が解決した話(43以下)から何を聞き取るべきでしょうか？ 一つは、神様がこの契約を見ておられ(49)、それを破るなら神様が裁かれる(53)ということがあるでしょう。しかし、もっと大事なことは、神様がヤコブの父祖と交わされた契約、つまり「神と人間との契約」は、ヤコブ(人間)がそれを破り、神様を悲しませても、なお神様が人間を見捨てず、罪赦し、愛し続け、救おうとして下さる契約であったということです！ 契約と言うよりは「神様の一方的な救いの約束」というべきでしょう。イエス・キリストによる救いの源です(ローマの信徒への手紙 3:21～、5:6～)。